災害は技術と共に進化する

(財)電力中央研究所　理事長　佐藤　太英

Motohide Sato
President
Central Research Institute of Electric Power Industry

近年、インターネットの普及は、すさまじいほどのスピードで、ドッグイヤーどころか、まさにラットイヤーの勢いである。最近では、これに拍車をかけるように、通信技術の目覚しい進展により「iモード」なるものが出現し、わずか一年の間に500万台を突破、今年中には、1000万台を超えて、インターネット端末機としてのパソコンを主役の座から引きずり下ろしそうな有様である。道行く若者達はファッションの小道具として、色とりどりの携帯電話をぶら下げ、歩きながら友達との通話を楽しんだり、街角で集まってEメールを送ったり、インターネットで様々な情報を入手したり、つい数年前には考えられなかった世界が現実のものとなっている。

IT革命は、社会への大きなインパクトを与え、これまでの世の中の様々な仕組みや慣習、さらには秩序までも激しく変えようとしている。

電子マネーとかインターネット上にオープンされた商店街や掲示板などが出現し、居ながらにして、パソコンを相手に商品を買ったり、株の取引をしたり、全く顔も知らないインターネット仲間と議論を重ねたり、私のような古い時代の人間にはとてもついていけない、何か取り残されたようでさみしい思いである。そのうちに、キーボードをたたくことなく、音声でコンピューターとつき合えるようになればもっと便利になるだろうと、夢見たりしている。しかし、この便利さは一体何だろう。そんな世界が実現したら、本当に幸せになれるのだろうか、ふと心配になるところである。

研究者が、新しい技術の開発に向けて自分の好きな分野で、第一人者を目指して、懸命の努力をすること自体を、決して否定するものではない。むしろ、それが研究者としての本来の使命である。しかし、人間は便利さを知らなければ、決して不便とは思わないのに、一度経験してしまうと不便さを実感するようになってしまう。今では技術進歩のお陰で、随分と便利になった世の中でも、TVや洗濯機が無ければ、不便で仕方がないし、電力やガス・水道は勿論、コンピューターや携帯電話までが、無くてはならないライフラインとなってしまった状況である。

このごろのようにY2K問題や“ I Love You ”なるコンピューターウィルスが出現すれば、たちどころに世の中は大混乱が生じてしまう。

中谷宇一郎博士は、“災害は技術の進歩と共に進化する”と云われたが、まことに味わい深い言葉である。技術開発にあたる研究者は、この言葉の意味をしっかりと認識する事が肝要であろう。技術者個人の力は小さいものであっても、技術を通して社会に与えるインパクトは、時にはものすごい力となる事もある。社会システムと技術が、常にバランスよく進展している状況であれば良いが、時として技術が先行し過ぎて、社会の秩序を乱し、ついには人間の心まで荒廃させてしまう恐れさえあり得るのである。

技術者は謙虚さが大切であり、便利さを求めるだけでなく、この技術が本当に世の中の役に立つのか？社会システムとの融合はとれているのか？タイミングは？人間の心の問題は？など社会的インパクトを常に念頭に置いて、独り善がりにならず議論を深めながら、研究を進める態度が大切であろう。今を生きる我々の責任を果たすため、新しい千年紀に向け、技術者やベンチャー企業家の社会的使命感、倫理観が望まれるところである。

電力中央研究所ホームページ
http://criepi.denken.or.jp/index-i.html